

多様な考えを認め合い、社会を創造することができる生徒が育つ社会科学習

名古屋市立天神山中学校教諭 服 部 樹

I 研究のねらい

現代社会は、グローバル化が進展し、異なる文化や考えをもつ人々との結び付きが深まった多様化した社会と言える。人や物の移動が活発化し、政治・経済、食料や資源など、様々な分野において国際的に協力関係を築き上げる一方、人種差別問題や民族紛争など、互いの考えや文化を受け入れることができずに起こる問題が後を絶たない。

中央教育審議会答申『令和の日本型教育』の構築を目指して」では、「あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となること」と記されている。また、令和5年に出された、「ナゴヤ学びのコンパス（中間案）」では、名古屋市の学校教育を通じて実現したい市民の姿として、「自由な市民として、互いを認め合い、共に社会を創造する」と示されており、多様な立場や考えを認め合える社会の創り手を育てていくことを目指していることが分かる。こうした状況から、私は、「多様な考えを認め合い、社会を創造することができる生徒」を育てたいと考えた。「多様な考えを認め合う」とは、他者との対話を通して、自分が知らない新たな根拠（事実・データ）に気付いたり再確認したりすることで、論拠をより明確なものにすることである。「社会を創造する」とは、社会的課題について、根拠をもってより望ましい未来の社会について考えを述べることである。

そこで、「対話型論証モデル」を参考にして授業を進めていきたいと考えた。「対話型論証」とは、京都大学教授の松下佳代氏が著書の中で、「ある問題に対して、他者と対話しながら、根拠をもって主張を組み立て、結論を導く活動」と述べている。「対話型論証モデル」を参考にした授業を進めることで、他者との対話を通して、根拠をもってより望ましい未来の社会について考えを述べるができるようになる。

II 研究の方法

1 研究の対象 名古屋市立天神山中学校 第2学年 32人

2 基本的な考え

主題に迫るためには、学習課題について、根拠をもって自分の考えをまとめる必要がある。また、他者との対話を通して、様々な考えがあることに気付かせるとともに、新たな根拠に気付かせたり、再確認させたりすることも必要である。

そこで、「捉える」「考える」「対話する」「まとめる」の4段階の学習過程を設定する。その中で、対話する活動と自分の考えをまとめる活動を取り入れ、学習を進める

【資料1】。

段階	主な学習活動
捉える	① 学習課題を捉える。
考える	② 学習課題について調べる。 ③ 「考えプロセスシート」を用いて、学習課題について自分の考えをまとめる。
対話する	④ 「同じ」考えをもつ生徒同士で話し合う。 ⑤ 「異なる」考えをもつ生徒同士で話し合う。 ⑥ 学級全体で話し合う。
まとめる	⑦ 根拠をもって主張を組み立て、より望ましい未来の社会について考えを述べるができるようにする。

【資料1 基本的な学習過程】

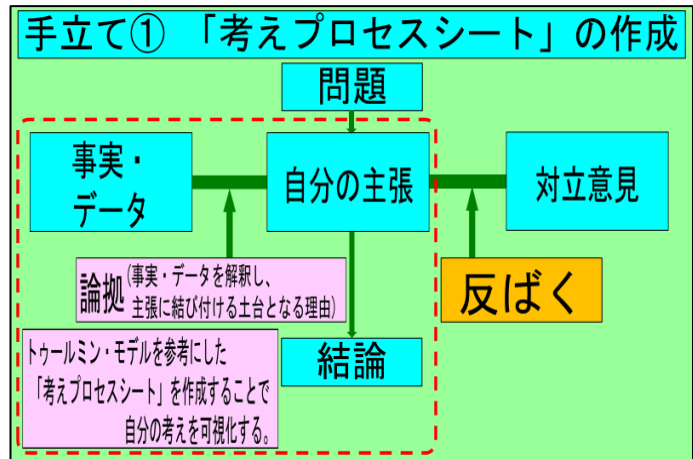
(1) 捉える段階

日本の様々な地域の特徴をつかみ、それぞれの地域で抱えている課題を捉えさせ、学習課題を設定する。また、生徒が学習課題について具体的に考えることができるように、身近な地域の特徴と比較することを通して、課題の把握をしやすくする。

(2) 考える段階

捉えた学習課題について、課題を乗り越えるための取組を中心に調べる視点を設定し、その視点から学習課題に迫ることができるようにする。

生徒が調べたことを基に学習課題に対する自分の考えを「考えプロセスシート」にまとめる。ツールミン・モデル（「対話型論証モデル」の点線枠で囲った部分）を基に作成したこの「考えプロセスシート」に自分の考えを図式化してまとめることにより、自分の考えを可視化して他者に示すことができるようにする【資料2】。



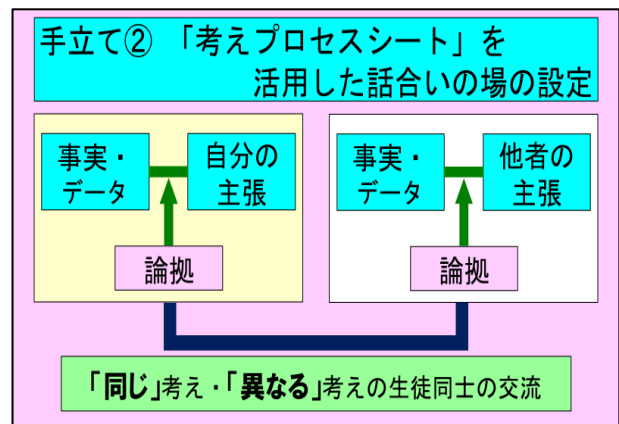
シートには、まず調べて得た事実やデータを記述する。次に、事実やデータから考えた主張を右側に記入する。そして、その主張の根拠となる理由を下に記述する。この手法を用いて、自分の考えを可視化し、他者との考えを交流する活動に生かすようにする。

(3) 対話する段階

まず初めに、「考える」段階でまとめた学習課題に対する自分の考えを、「同じ」考えをもつ生徒同士でグループ交流する活動を設ける。この活動を行うことで、考えを同じくするものの、その考えに至る論拠が異なることに気付くことができるようにする。

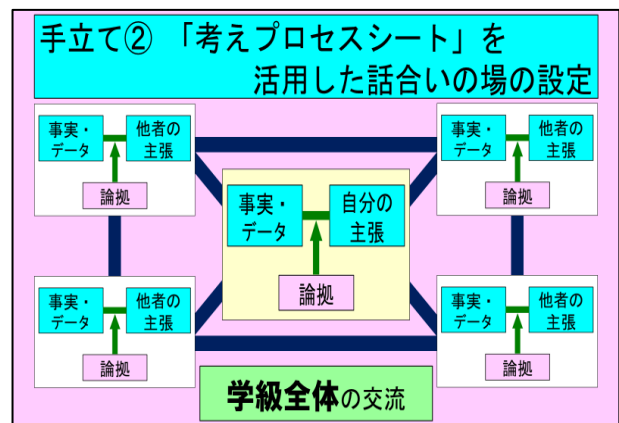
次に、「異なる」考えをもつ生徒同士でグループ交流する活動を設ける。この活動を行うことで、考えが異なることを捉えるだけでなく、何を論拠として考えたのか捉えやすくする【資料3】。

その後、学級全体での交流活動を設ける。このように他者と考えを交流する活動の場を設定することで、自分が知らない新たな根拠（事実・データ）に気付いたり再確認したりする。また、論拠をより明確なものにすることで、学習課題について考えていくことができるようにする【資料4】。



(4) まとめる段階

最後に、単元の「捉える」段階で掲げた学習課題に対して、根拠をもって主張を組み立て、より望ましい未来の社会について考えを述べるようにする。



3 「中国・四国地方」「近畿地方」における学習展開

本研究では、中学校第2学年「日本の諸地域」の「中国・四国地方」と「近畿地方」を取り上げ、実践に取り組む。

<p>単元と目標</p>	<p>単元「中国・四国地方」(7時間)</p> <p>【実践のねらい】</p> <p>中国・四国地方の人口分布から、中国・四国地方の特色を捉える。そして、過疎化を防ぐためにはどうすればよいのかを様々な視点から考え、他者と交流することで、根拠をもってより望ましい未来の社会について考えることができるようにする。</p>	<p>単元「近畿地方」(7時間)</p> <p>【実践のねらい】</p> <p>地域の歴史的な移り変わりから、近畿地方の特色を捉える。そして、今後の近畿地方の発展のためには、どうすればよいのかを様々な視点から考え、他者と交流することで、根拠をもってより望ましい未来の社会について考えることができるようにする。</p>
<p>段階</p>	<p>主な学習活動</p>	
<p>捉える</p>	<p>① 中国・四国地方の人口分布や自然環境の特色から、学習課題を捉える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 瀬戸内に集中する人口分布について ・ 瀬戸内の気候について ・ 広島市の発達の様子について <p>● 人口の減少が進む地域(過疎化する地域)が抱える課題を捉える。</p> <div style="border: 2px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【学習課題】</p> <p>中国・四国地方の過疎化を防ぐためには、どこに力を入れるべきだろうか？</p> </div>	<p>① 歴史的な移り変わりから、近畿地方の特色を知り、学習課題を捉える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 歴史に根差した文化や産業について ・ 多様な自然環境について ・ 阪神工業地帯について <p>● 歴史と伝統ある町が抱える課題を捉える。</p> <div style="border: 2px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【学習課題】</p> <p>近畿地方が発展するためには、どこに力を入れるべきだろうか？</p> </div>
<p>考える</p>	<p>② 学習課題について調べる。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【調べる視点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域おこし協力隊(多様な活動) ・ 第六次産業(地域の特色を生かした産業) ・ 交通網の整備(移動手段の多様化) </div> <p>③ 調べたことを基に、「考えプロセスシート」を用いて、学習課題に対する自分の考えをまとめる。 【検証場面1】</p>	<p>② 学習課題について調べる。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【調べる視点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 歴史的な伝統文化(観光都市) ・ 産業(独自の技術をもつ企業) ・ 環境(琵琶湖の環境汚染) </div> <p>③ 調べたことを基に、「考えプロセスシート」を用いて、学習課題に対する自分の考えをまとめる。 【検証場面1】</p>
<p>対話する</p>	<p>④ 「考えプロセスシート」を基に、「同じ」考えをもつ生徒同士で話し合う。</p> <p>⑤ 「考えプロセスシート」を基に、「異なる」考えをもつ生徒同士で話し合う。</p> <p>⑥ 学級全体で学習課題について話し合う。</p>	<p>④ 「考えプロセスシート」を基に、「同じ」考えをもつ生徒同士で話し合う。</p> <p>⑤ 「考えプロセスシート」を基に、「異なる」考えをもつ生徒同士で話し合う。</p> <p>⑥ 学級全体で学習課題について話し合う。</p>
<p>まとめる</p>	<p>⑦ 前時までの学習活動を振り返り、改めて学習課題について自分の考えをまとめる。 【検証場面2】</p> <p>⑧ 今後の中国・四国地方のより望ましい未来の社会について考える。</p>	<p>⑦ 前時までの学習活動を振り返り、改めて学習課題について自分の考えをまとめる。 【検証場面2】</p> <p>⑧ 今後の近畿地方のより望ましい未来の社会について考える。</p>

4 記述分析・質問紙調査による生徒の実態把握

単元「日本の諸地域 九州地方」において、学習課題について、いくつかの視点を基に調べる活動を行う。その後、調べたことを基に、学習課題への考えをまとめさせ、学習を通して得た事実を根拠として自分の考えを記述することができるか調査する。また、他者との対話を通して、根拠をもってより望ましい未来の社会について考えを述べるができるか、対話後の記述内容から把握する。

5 授業研究を通して明らかにしたいこと

- (1) 「考える」段階において、「考えプロセスシート」を作成することは、根拠をより明確にした学習課題に対する考えをもつ上で有効か、「考えプロセスシート」への記述内容からつかむ。
- (2) 「まとめる」段階において、「考えプロセスシート」を活用した「同じ」考えや「異なる」考えをもつ生徒同士を交流させたり、学級全体で交流させたりすることは、根拠をもってより望ましい未来の社会について考える上で有効か、学習後の振り返りへの記述内容からつかむ。

Ⅲ 年間の研究計画

月	研究・調査・授業研究等
4	○ 実態調査を行う。
5	○ 研究主題の基本的な考え方を基に研究の方向性を定め、研究計画書を作成する。 ○ 第1次授業研究の計画書を作成し、検討する。 ○ 長期研修の日程を作成する。
6	○ 第1次授業研究実践単元「中国・四国地方」 【検証点1】 「考える」段階において、「考えプロセスシート」を作成することは、根拠をより明確にした学習課題に対する考えをもつ上で有効か、「考えプロセスシート」への記述内容からつかむ。 【検証点2】 「まとめる」段階において、「考えプロセスシート」を活用した「同じ」考えや「異なる」考えをもつ生徒同士を交流させたり、学級全体で交流させたりすることは、根拠をもってより望ましい未来の社会について考える上で有効か、学習後の振り返りへの記述内容からつかむ。
7	○ 第1次授業研究を分析し、基本的な考え方を修正する。 ○ 中間まとめを作成し、今後の研究の方向性を明らかにする。
8	○ 長期研修（A日程）研究先進校や先進研究者を訪問し、研究を深める。 ・ 函館市立亀田中学校 教諭 川端 祐介氏 ・ 兵庫教育大学 理事 吉水 裕也氏 ・ 京都大学 教授 松下 佳代氏 ・ 鳴門教育大学大学院 教授 梅津 正美氏 ○ 第2次授業研究の授業計画を作成し、検討する。
9	○ 第2次授業研究単元「近畿地方」
10	長期研修で学んだことを基に授業改善し、 【検証点1】 【検証点2】 を検証する。
11	○ 第1・2次授業研究の成果や課題、長期研修の成果や今後の研究の課題などを明らかにし、最終のまとめを作成する。
12	
1	○ 「多様な考えを認め合い、社会を創造することができる生徒が育つ社会科学習」について1年間の成果や課題をまとめ、発表する。
2	
3	○ 1年間の研究を反省し、今後の研究の方向付けをする。

参考・引用文献 松下佳代『対話型論証による学びのデザイン』勁草書房(2021)